

国民経済計算部会の審議状況について（報告）

## 第7回国民経済計算部会（1月26日開催）の議事の概要

### 1 引き続き、昨年4月に諮問された諮問第16号の審議を行った。

#### （諮問第16号の審議事項）

平成17年基準改定に係る課題

- ・固定資本減耗の時価評価や恒久棚卸法（PIM）による推計の導入等ストック統計等の整備
- ・FISIMの導入
- ・公的部門分類の見直し、財政統計整備
- 08SNAの導入
- 経済センサス - 活動調査に係る年次推計等の抜本的な見直し

### 2 議事の概要

#### (1) スtockワーキンググループの審議状況について

内閣府から、平成22年1月18日に開催された第1回ストックワーキンググループの審議状況について、説明があった。

#### (2) 育成資産の推計について

内閣府から、第1回ストックワーキンググループで了承されたストック育成資産の推計について、説明があり、部会として了承された。

#### (3) FISIMについて

内閣府から、年次推計に関するFISIMの導入について、前回部会での質問・意見に対する回答の説明があり、導入案は部会として了承された。ただし、以下の点については、内閣府が引き続き整理・検討することとされた。

QEにおけるFISIMの扱い

SNAの各計数への影響、表章の変更等についての対外的な説明

信用リスクプレミアム、タームプレミアムの取扱い

主な質問・意見は以下のとおり。

信用リスクが高い場合には貸出金利が高くなり、FISIMが増加することとなるが、後に不良債権化した場合でも、FISIMの計測には影響を与えない。そうした状況を修正する方法として、どのような手法が議論されているのか。

国際的に議論されている最中であり、コンセンサスは得られていないが、不良債権の償却額を用いて算出した信用コストを使う方法や、市場で観察される社債・国債間のスプレッドを用いる方法等が提案されている。

FISIMは消費者の配分が多いと説明があったが、統計的にもう少し説明してほしい。また、QEでの導入について、今後、審議されると思うが、どの程度数字の動きがあるのか。あまりブレが大きい場合は速報ではなく、確報で直近の計数を反映させる方法を検討すべきではないか。

企業向けFISIMは、残高は大きいと利率が小さく、家計は残高が小さいと利率が大きいという傾向があり、消費者への配分が大きくなる。QEについては、現在、年次推計でも暦年計数を年度計数から推計する必要があり、四半期計数を検討しているところ。QEでは、利子額は年度でしか把握できない、また、残高は把握可能であるが一次QEでは間に合わないといった問題があり、現在検討しているところ。